

3月報告書

常陸太田市 地域おこし協力隊
ぶどう栽培の担い手 舘野 健一

行った主な活動

粗皮むき

主幹部の古い粗皮を丁寧に除去し、害虫や病原菌の潜伏場所を減らす作業を実施した。削り過ぎると樹体を傷めるため、木質部を確認しながら力加減を調整し、表面の浮いた部分を中心に慎重に進めた。

作業を通じて、冬期管理の精度が春以降の健全な生育に直結することを改めて確認した。



圃場整備

棚下の雑草、落葉、剪定枝の残りを確認し、作業動線と通路の確保を意識して圃場整備を行った。あわせて支柱や棚線の状態も見回り、今後の誘引・芽かき・防除作業が進めやすい環境づくりを行った。圃場全体を俯瞰して見ることで、改善が必要な箇所を早めに把握できた。



活動を行った感想など

粗皮むきは、単なる清掃ではなく病虫害防除を目的とした繊細な管理であり、削り加減の見極めが重要だと実感した。また、圃場整備は後の全作業の効率を左右する基礎であり、事前の観察と優先順位の整理が品質に直結することを学んだ。今後は、削り過ぎ等の判断基準を明確にするため、指導農家の技術を深く観察するとともに、自身の作業前後を記録・比較することで、経験不足を補い技術の向上に努めたい。

今後の目標など

今後は、芽吹き後の新梢管理や誘引の基本を確実に身につけるとともに、圃場ごとの樹勢差や地力の違いを継続して観察し、記録へつなげていきたい。また、年間を通した作業の連動性を把握し、作業がどのようにつながっているかを理解したうえで行動できるようにしたい。将来的には、学んだ内容を自らの就農準備へ結び付け、再現性のある技術として定着させることを目標とする。

あわせて、毎回の作業内容を記録し、指導内容との違いを整理することで、自分の判断力向上にもつなげていきたい。特に、樹の状態を見て次に必要となる管理を先回りして考えられるようになり、栽培管理全体を理解して動けるよう成長したい。

